

カンヌ国際映画祭 併設見本市で「ジャパン・パビリオン」をバーチャル出展  
「オフィシャルセレクション 2020」選出の  
河瀬直美監督、深田晃司監督トークイベント ほか開催  
2020年6月22日(月)～6月26日(金)

<https://marchedufilm.online/>



©LESLIE KEE



© Mehdi Benkler Koji Fukada

文化庁は「日本映画海外発信事業」の一環として、カンヌ国際映画祭併設マーケット「マルシェ・ドゥ・フィルム・オンライン(Marché du Film Online)」に「ジャパン・パビリオン」を出展し公益財団法人ユニジャパンが運営を行います。

本年は世界的な新型コロナウイルスの影響により、映画祭は開催を見送り、併設見本市は完全オンライン開催という初の試みとなります。

「ジャパン・パビリオン」ではバーチャル空間にて、新作日本映画や、国内で開催される映画祭、国内フィルムコミッションのご紹介など、日本と海外の映画業界人を結ぶ場を提供します。また特別トークイベントとして、カンヌ映画祭公式「Official Selection 2020 (オフィシャルセレクション 2020)」に選出された映画『朝が来る』(監督脚本：河瀬直美、製作：キノフィルムズ・組画)と『本気のしるし』《劇場版》(監督：深田晃司、製作：メ〜テレ)両監督のトークイベントをライブ配信いたします。

### 「ジャパン・パビリオン」概要 <https://marchedufilm.online/>

実施期間: 2020年6月22日(月)～26日(金)

実施内容: カンヌ国際映画祭公式出品 日本映画紹介

国内で開催される国際映画祭紹介

国内フィルムコミッション紹介

マルシェ・ドゥ・フィルムオンライン参加 プロデューサーリンク

マルシェ・ドゥ・フィルムオンライン参加 セールス会社リンク

日本映画マーケットスクリーニング情報一覧

主催:文化庁 運営:ユニジャパン 協力:ジャパン・フィルムコミッション

詳細お問い合わせ

公益財団法人ユニジャパン「ジャパン・パビリオン」事務局 [office@unijapan.org](mailto:office@unijapan.org)

**「オンライントークイベント“Conversation with Directors”」概要**

世界的なコロナ禍の影響により映画祭での上映は叶わぬこととなった『朝が来る』『本気のしるし』について、両監督がそれぞれ製作の背景、カンヌ国際映画祭への想いを語ります。Zoom ウェビナーを用いて実施します。ご視聴に関しては各イベントの登録 URL より事前にご登録ください。イベントアーカイブ動画は、後日文化庁の Youtube チャンネル (bunkachannel) より公開予定です。

**第 1 回 ゲスト:河瀬直美監督**

開催日時: 2020 年 6 月 23 日 (火) 18 時~19 時 (日本時間)

登録 URL: [https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_OCmOxUpBT6qnI\\_SY1zEF\\_Q](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_OCmOxUpBT6qnI_SY1zEF_Q)**第 2 回 ゲスト:深田晃司監督、土村芳 (『本気のしるし』ヒロイン)**

開催日時: 2020 年 6 月 24 日 (水) 17 時~18 時 (日本時間)

登録 URL: [https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_qW\\_OlxSRTNKeeCy3-2yrcw](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_qW_OlxSRTNKeeCy3-2yrcw)**河瀬直美監督 プロフィール**

奈良県出身。映画表現の原点となった自主製作ドキュメンタリー映画『につつまれて』(92 年)、『かたつもり』(94 年) が山形国際ドキュメンタリー映画祭で批評家連盟賞、奨励賞をそれぞれ受賞し、97 年、初の劇場映画『萌の朱雀』で、カンヌ国際映画祭カメラドール(新人監督賞)を 27 歳で史上最年少受賞。現在に至るまでの一貫した「リアリティ」の追求はドキュメンタリー、フィクションの域を越え、世界各国の映画祭で高い評価を受ける。また、カンヌ国際映画祭をはじめ、各国の映画祭で審査員を務めるなど、幅広い観点を身につけ、CM、DJ、エッセイ、書道、写真など枠にとらわれないさまざまな表現活動を続ける。10 年に自身の故郷、奈良で立ち上げた「なら国際映画祭」では、エグゼクティブディレクターとして後進の育成に力を入れ、これまでにプロデュースした作品は 8 作品にのぼる。東京 2020 オリンピック競技大会公式映画の監督に就任。最新作『朝が来る』は 10 月 23 日から全国公開が決定している。

**深田晃司監督 プロフィール**

1980 年生まれ。2006 年『ざくろ屋敷』を発表。パリ KINOTAYO 映画祭ソレイユドール新人賞受賞、2008 年『東京人間喜劇』を発表、ローマ国際映画祭選出。2010 年、『歓待』を発表、東京国際映画祭「日本映画・ある視点」作品賞、プチョンファンタスティック国際映画祭最優秀アジア映画賞を受賞。13 年『ほとりの朔子』でナント三大陸映画祭グランプリ受賞。2016 年日仏合作となる『淵に立つ』が第 69 回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門審査委員賞を受賞。2017 年第 67 回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2018 年フランス芸術文化勲章「シュバリエ」を受勲。2019 年 7 本目となる長編映画『よこがお』(日仏合作)を発表。『本気のしるし』は初のテレビドラマ監督作であり、劇場公開用に再編集された《劇場版》がオフィシャルセレクション 2020 に選出された。

**土村芳 プロフィール**

1990 年 12 月 11 日生まれ。岩手県出身。大学在学中に映画『弥勒』(13/林海象監督)で主演。NHK 朝の連続テレビ小説「べっぴんさん」で注目を浴び、近年ドラマ「3 年 A 組-今から皆さんは、人質です-」(19/NTV 系)、「病室で念仏を唱えないでください」(20/TBS 系)、映画『去年の冬、きみと別れ』(18/瀧本智行監督)などに出演。



詳細お問い合わせ

公益財団法人ユニジャパン「ジャパン・パピリオン」事務局 office@unijapan.org